

(3)教育・子育て 令和8年7月末日現在

件名	要旨	市の考え方	受付日	回答日	担当部署
子どもたちの居場所を増やしてほしい	小学校校区内に、公園や図書館など、子どもたちの居場所を増やしてほしいです。小規模公園しかなく、そこに子ども達が大勢集まってしまう。使用しなくなった小学校のプール跡地を公園などにしていただけないでしょうか。	本市では、子どもが笑顔で健やかに成長できるまちの実現に向け、子どもたちが、地域で安心、安全に遊ぶことができる環境づくりを進めているところです。 現在、市内の全小学校において、学校施設を活用した「放課後オープンスクエア」を実施し、全ての児童が放課後、土曜日や三季休業期に主体的な活動の場として、安全、安心に過ごせる居場所づくりに取り組んでいます。 また、水泳授業の民間活用により、使用しなくなる学校プール敷地の跡地活用については、今後の検討が必要な課題であると認識しております。各学校プールの立地条件や地域事情などの諸条件を踏まえつつ、いただいたご意見も参考に、市全体として有効な跡地活用の方向性を検討してまいります。 今後も、子どもたちにとって、よりよい地域の居場所づくりに努めてまいります。	2026/4/5	2026/5/7	教育政策課 放課後子ども課
副食費について	現在、子育て支援施策として3歳以上児の保育料無償化が実施されていますが、副食費は自己負担となっています。保育料が無償化されても、副食費の負担が残ることで「実質的な無償化」とは言い難いと感じています。 子育て支援のさらなる充実の観点から、副食費についても無償化、もしくは負担軽減措置のご検討をお願いします。	本市は、子育て世帯をターゲットにした施策を最重点施策の一つとして掲げ、各種施策を通して、子育て環境の充実に取り組んでいるところです。保育料・副食費につきましても、子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、市独自の取組みとして、国の施策に加え、所得や年齢の制限を設けない第2子以降の無償化を実施しています。 一方で、国の施策を上回る市独自の施策を実施するには、本市の限られた財源の中で事業全体のバランスを考慮する必要があり、その結果として、ご意見にもありましたように、副食費の無償化の対象とならないご家庭が生じている現状について認識しております。副食費につきましては、在宅で保育をされている場合にも生じる費用であることから、さらなる支援策の拡充には様々な検討が必要であると考えております。 ご提言いただきました、副食費の無償化や負担軽減措置も含めて、各種施策との優先順位を踏まえながら、安心して出産し、楽しく子育てができるまちづくりを実現できるよう取り組みを進めてまいります。	2026/4/21	2026/6/8	子ども未来部 保育幼稚園入園課
小学校プール学習の期間について	夏休みの期間がとても少なく、猛暑の中始業式があって登校するのが可哀想なので9月に登校開始にできないでしょうか。 プール学習も、6月という梅雨の時期に2～3週間しかありません。プール学習は泳ぎ方などを練習する時間でもあります。が、短い期間だけだと泳げるようにはなりません。 夏休みとプール学習の時間について、期間・時期を早めに検討してください。	本市における夏季休業の期間は、「枚方市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則」において、7月21日から8月24日までと定めています。 夏季休業の期間短縮については、平成21年4月から、新学習指導要領の全面実施に伴って授業時数が増加することや学習内容の定着を図ることを鑑み、実施したものです。 暑さ対策については、教室等の空調設備の全校設置をはじめ、ウォータークーラーの活用や水分補給への配慮等、学習環境を整えています。登下校中の暑さに関しては、冷感タオルの使用や直射日光を回避するため、帽子や傘を有効に活用する旨も提示をしており、引き続き熱中症対策等を講じてまいります。 市立小学校における水泳授業については、児童の泳力向上や、気象条件に左右されない計画的な授業実施等を図るため、市内および近隣の民間施設（スイミングスクール）や民間の専門スタッフを活用した取り組みを、令和4年度より順次実施しております。 この取り組みにおいては、施設のスタッフによる専門的な水泳指導により、限られた授業時間内で、効果的に児童の泳力向上を図ることができ、また、民間の屋内温水プールで授業を行うため、雨天や近年の高温などの気象条件に左右されることなく、計画的に水泳授業を実施することが可能となります。今年度におきましては、市内全44小学校のうち、24校にて民間施設等での水泳授業を行っており、令和10年度までに全小学校に拡大する予定です。 今後も、全小学校での実施に向け、引き続き取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。	2026/6/9	2026/7/6	総合教育部 教育政策課 学校教育部 教育指導課

(3)教育・子育て 令和8年7月末日現在

件名	要旨	市の考え方	受付日	回答日	担当部署
枚方市はたちのつどいについて	はたちのつどいはどうして、中学校単位で開催されるのですか。市外の学校へ進学した場合はどこへ出席するのですか。 中学校単位の開催だと、中学校に思い出がないので出席したくないという子がいると聞きます。今後も中学校単位で開催される予定でしょうか。	本市の成人式(現在のはたちのつどい)は、平成17年度まで一括方式で開催しておりましたが、従来の会場での開催が困難になったことを契機に、開催方式について調査、検討したところ、地域分散方式が望ましいとの結論に達したため、平成18年度から中学校を単位とした、現在的方式で開催しております。 式典への参加は、予約不要でどの会場でも可能としておりますが、出身中学校の会場に出席される方が多い中で、私立中学校出身や他市から転入された等、様々な理由で市立中学校の会場に出席しにくいとお声に応えるため、どなたでも参加しやすい会場として、令和6年度から、市立19中学校に加え、地域活性化支援センターに「TAMAYURAイベントホール会場」を設置しております。 また、教育委員会では、令和6年度、今後の「はたちのつどい」の内容等の検討の参考にさせていただくため、市内の高等学校等にも協力いただき「はたちのつどい」の未来の参加者を対象に、アンケートを実施しました。 本アンケートは、当該年度に16歳から19歳になる計3,214人の方に回答をいただき、中心的な質問である、皆様が「はたちのつどい」に求めるものについて、多くの選択肢から5項目を選んでいただく質問では、「会場で友達と記念写真を撮りたい」など、友達との交流についての項目が最も重視されているとの結果となりました。次いで「大きな会場で大人数で祝いたい」、「会場は自宅の近くがよい」など、会場に関する項目が重視されていますが、一つの形に大きく偏ることなく、大きな会場、小さな会場それぞれのメリットなどを踏まえ、皆様が様々な考えを持たれていることがわかる結果となりました。 これらのことから、市としては、現行の地域分散方式は、参加対象者全てのニーズにこたえるものではないものの、多くの方が重視されるポイントをある程度押さえることができているものと考えており、今後の「はたちのつどい」の開催方式については、人口推移などの社会状況の変化や、地域の皆様を含む関係者のご意見を踏まえつつ、検討すべきものと考えております。 アンケート結果や皆様からのご意見などを参考に、今後も「はたちのつどい」の充実について検討していきますので、ご理解くださいますよう、よろしくお願いします。	2026/6/26	2026/7/24	総合教育部 教育政策課